

ニュース・レター

N05
2009年4月号

おやじ日本

特定非営利活動法人おやじ日本 誕生！

本年2月9日、かねてより準備を進めていた法人登記が完了し、特定非営利活動法人おやじ日本が誕生しました。平成14年におやじ日本設立以来、全国のおやじの会をはじめいろいろな団体の方々と交流してネットワークを広げ、83運動やiS(アイエス)運動を提言して、子どもたちの安全を守る活動に取り組んできましたが、今後、更に活動を飛躍させていこうと決意を新たにしています。

3月14日(水)には、第1回定例理事会を開き、事業計画や事業予算、理事会や運営会議の運営要綱その他について審議決定し、具体的な活動を行うための体制が確定しました。定款に基づき、定例理事会を年4回開催し、法人の経営や人事、経理、資産、資金に関するなどを審議します。これまで、月1回開催し、団体の運営や活動について話し合っていた運営会議は、今後、運営委員会と名称を変え、「十分な話し合いにより、おやじ日本の日常の活動・運営を、参加運営委員全員の理解と確認に基づいて行うようにする」とすることが、第1回の理事会で確認され、理事会終了後に早速第1回運営委員会が開催されました。

NPO法人おやじ日本の発足に伴い、これまでのおやじ日本は解散しました。これまでおやじ日本の会員だった皆様には「特定非営利活動法人おやじ日本入会のご案内とご協力のお願い」を送付させていただいております。入会手続きと、今後なお一層のご協力、ご支援をお願い申し上げます。

第1回理事会で審議を行う
理事の皆さん →

理事総数 15名
出席者数 9名
委任状 6名
監事1名出席



理事会終了後、皆で記念撮影 ↓



理事名簿

理事長	竹花 豊
副理事長	二村 好彦 伊東 一吉
	納富 善朗
理 事	上田 和俊 浅野 悅洋
	更江 篤 前田 純一
	伊沢 公晴 渡部 徹
	片山 潮 篠原 豊
	石綿 晃 森田 孝明
監 事	小山 洋子 北川 邦弘 浅沼 仁

世界のおやじ、日本のおやじ。

特定非営利活動法人おやじ日本設立記念大会

世界のおやじ、日本のおやじ。

～語ろうじゃないか、子どもへの思い～

いおめとえ日を法に今、たやのも直本開人な
しじおにすの催設つ多
まのや考とおす立てく
す思じえいやるをいの
。いの合うじこ記る父
が役いも」と念こ親
子割のととしが
どを厳で題してを子
も問しすしま「実ど
たいい。てしお感も
ち直時家、たわした
にし代庭おじてち
届まをのや今日いの
く。担あじ回本ま育
えりののNす成
る方あテPに
子、り10お従
ど家方はマ法や來
も族を人じ以
たのク世設日上
ちあ口世立本に
をり1の記で取
育方バお念は組
てなルレや大、む
るどにじ会今よ
たを考、一年う

開催日 平成二十一年六月七日(日)

開演	受付開始	オープニング
午後一時三十分	午後一時三十分	午後一時三十分

会場:渋谷 C.C.Lemon ホール 渋谷区役所横

定員:2,000名(先着順) 当日会場受付までお早目にお越し下さい。

参加費:無料 (ただし資料作成費用として500円のご負担をお願い致します。)

問い合わせ先:特定非営利活動法人おやじ日本

〒150-0041 東京都渋谷区神南1-19-8 渋谷区立勤労福祉会館2F

TEL&FAX 03-3462-7113 メール:desk@oyaji-nippon.org URL:<http://oyaji-nippon.org/>

オープニング 大江戸舞祭(大江戸ダンスNPO法人)

第1部 基調講演 「おやじの今、そして子どもの未来へ」(仮題)

デビット・ゾペティ氏 (作家 著書「いちげんさん」他)

鈴木 光司氏 (作家 著書「父性の誕生」「リング」他)

第2部 世界各国のおやじからのメッセージ

第3部 パネルディスカッション 「語ろうじゃないか、子どもへの思い」 (午後4時30分閉会予定)

パネリスト

ジョン・ギャスライト氏	(カナダ:農学博士)
ジミー佐古田氏	(アメリカ:元ロサンゼルス市警察捜査官)
鈴木 光司氏	(日本:作家 著書「父性の誕生」「リング」他)
デビッド・ゾペティ氏	(イスラエル:作家 著書「いちげんさん」他)
堀尾 正明氏	(日本:フリーアナウンサー)
吳 念聖氏	(中国:早稲田大学法学学術院客員准教授)
コーディネーター 竹花 豊	(特定非営利活動法人おやじ日本理事長・東京都教育委員・元東京都副知事)

☆大会終了後、希望者による交流会を開催します。

主催: 特定非営利活動法人おやじ日本

共催: 渋谷区 読売新聞東京本社 全国読売防犯協力会

後援: 東京都 警察庁 文部科学省 総務省 厚生労働省(社)全国少年警察ボランティア協会 全国国公立幼稚園長会 全国連合小学校長会 全日本中学校長会 全国高等学校長協会(社)日本PTA全国協議会(社)全国高等学校PTA連合会(社)日本青年会議所(財)マルチメディア振興センター NPO法人日本ガーディン・エンジェルス ネット社会と子どもたち協議会 NPO法人ユースサポートセンター友懇塾 NPO法人日本を美化する会 他

協力: 広島市おやじの会連絡会 おやじ日本山形 おやじ高知忠恕会 廿日市野村おやじの会 おやじ日本しまなみ 豊橋おやじネットワーク おやじ東京 おやじ神奈川 千葉県内おやじネットワーク おやじ埼玉ネットワーク 他

多彩な顔ぶれのパネリストたちにご期待下さい！



デビッド・ズペティ氏

フランス

スイス生まれ、日本在住の小説家。テレビ朝日初の外国籍社員。記者やディレクターとして働く。同社の男性育児休業取得者第1号ともなる。処女作『いちげんさん』で第20回すばる文学賞を受賞、芥川賞候補となる。その後執筆に専念。非母語である日本語で作家活動を行う。2作目『アレグリア』は三島賞の候補となり、3作目の初エッセイ集『旅日記』で、「第50回・日本エッセイスト・クラブ賞」を受賞。



鈴木 光司氏

日本

デビュー作「楽園」で日本ファンタジーノベル大賞優秀賞。「リング」は横溝正史ミステリー大賞最終候補となり、映像化。ホラーブームの火付け役となった。続編「らせん」は第17回吉川英治文学新人賞受賞。「仄暗い水の底から」で直木賞候補。他に「父性の誕生」「ママとパパに聞かせたい27の話」など。高校教師であった妻に代り、ふたりの娘を育て上げた。「少子化への対応を考える有識者会議」委員



ジミー佐古田氏

アメリカ

広島にルーツを持つ日系三世。カリフォルニア大学ロサンゼルス校ではフットボーラー選手として活躍。アメリカの警察学校を首席で卒業し陸軍に入隊。除隊後、ロス市警に入り麻薬取締課、風紀取締課、少年課など多くの部署に就いた。1977年には全米最優秀警察官に選ばれた。ロス郡検事ロス銃撃事件(ロス疑惑、三浦事件)日米合同捜査の指揮をした。



堀尾 正明氏

日本

早稲田大学在学中に文学座附属演劇研究所に入り、研究生としてミュージカルに出演。81年にNHKにアナウンサーとして入局、95年開始の『スタジオパークからこんにちは』メインキャスターとなり、人気を博す。00年『NHKニュース10』のキャスター。その後『サタデースポーツ』『サンデースポーツ』担当に廻りスポーツ番へ。2008年3月31日付でNHKを退職。フリーANAウンサーとなる。



ジョン・ギャスライト氏

カナダ

農学博士 アメリカ生まれ南山大学経営学部卒業。愛知県瀬戸市に廃材の味噌樽を利用して家を建てるとともに、ツリーハウスを造り、日本人女性の夫人と二人の男の子と暮らす。ツリークライミングジャパン(本部アメリカ)を設立し、木登りの楽しさを全国そして世界に広める活動を展開中。著書に『ゆめのももだち』(中央出版)、『子育てはラブサンドイッチ』(扶桑社)ほか多数。テレビやラジオにも数多く出演。「木笑園造林プロジェクト」が2000年度グッドデザイン賞を受賞。



吳 念聖氏

中国

早稲田大学法学院客員准教授 1979年に来日。早稲田大学一文で日本文学(中世の軍記)を専攻。大学院は慶應大学で比較文学(軍記物)専攻。3月14日に行った「続・世界のおやじ、日本のおやじ」にパネリストとして出演。子育てには自負があると語った。



コーディネーターは竹花豊おやじ日本理事長です

今日本にはさまざまな課題がある。決して小さくはないけれど、そのひとつ一つを解決することが将来の日本にとって大変大事だと思う。そうした問題の解決にとって、おやじ日本で重要だと考えているのは、家庭のありようで、今、日本の家庭が子どもたちに対する責任を果たし得ない状況を変えていくことが非常に大切だと思う。とりわけ、家庭の中心なってもらいたい父親が

その役割をしっかりとと考え実践していくことが大事ではないかと思う。父親論については、多くの方が、いろんな立場から語っているが、にもかかわらず、状況はあまり変わっていない。むしろ、社会全体としては「仕事が忙しいのだから仕方がない」という風潮が全体を覆っている。そういった状況の中で、今、どうしてもこの問題に焦点をあててもう一度考えたいと思う。なぜ世界のオヤジかというと、比較すべき何かがあった方が考えやすいからで、決して世界のお父さんたちのマネをしようということではない。「ああ、そういう父親論もあるのか、そういうところは自分たちに欠けているね」「そういうところはどこの国も同じだね」ということを頭に置いてみると、問題が鮮明になるのではないかと思っている。正しいものを求めようとするものではなく、お互いが考える機会にしたい。

(続「世界のおやじ、日本のおやじ」意見交換会での挨拶より 3/14)

他に、元マラソン選手で現東京都教育委員の瀬古利彦氏や、元ラグビー選手で、サントリーサンゴリアス監督の清宮克幸氏等がビデオ出演して、おやじ論を語ります。

続・世界のおやじ、日本のおやじ意見交換会

3月14日(土)午後2時より、渋谷区勤労会館会議室(おやじ日本事務所隣)で、続「世界のおやじ、日本のおやじ」意見交換会が行われました。これは、6月7日(日)の特定非営利活動法人おやじ日本設立記念大会の準備企画第2弾となるもので、おやじ東京との共催で実施したものです。今回は、スウェーデン、中国、スリランカの3カ国から4人の方をゲストスピーカーとして迎え、おやじ日本竹花理事長は、「世界のおやじたちと意見交換をする中で、子どもたちに対する家庭の責任、とりわけ父親の役割を考える機会にしたい」と挨拶し、日本の父親代表としてパネリストに加わりました。

意見交換会はおやじ東京脇山会長の巧みなコーディネートで活発な議論が引き出されました。その要旨をお伝えします。

写真左から

コーディネーター 脇山幸之(おやじ東京)
パネリスト ロハン・フェルナンド氏(スリランカ)
エドバーグ・ヤコブ氏(スウェーデン)
吳念聖氏(中国)
パーゴダ・アラッチゲ・ドン・ソーマパーラ氏
(スランカ)
竹花豊(日本)



まずは、出身国の紹介と自己紹介！

エドバーグ・ヤコブ氏 (スウェーデン 欧州ビジネス協会 日本滞在10年 子どもは7歳、4歳、5ヶ月)



スウェーデンでは一般的に平等主義。両親合わせて18か月の産休がある。一方だけだと15か月しか取れない。この制度を導入して10年くらいたつが、周囲の父親は、1歳くらいで母親が復帰した後で6ヶ月の産休を取る。去年のパパサミットで、スウェーデンの企業で出世するためには産休を取った方が絶対有利という面白い話が出た。仕事を優先する人は、上にいけない。産休を取ること自体が指標になり、何が大事かということが分かっていると評価され、企業としても使いやすいし、リーダーとしても使える人だという考え方方が一般的。そこが日本との一番の大きな違い。

吳念聖(ウニアンシアン)氏 (中国 早稲田大学客員准教授 日中比較文学研究者 日本滞在30年 息子21歳 娘17歳)



日本でいえば、団塊の世代。文化大革命のときは高校生。10年間黒竜江の住民公社に従事していたが、1979年に来日し、早稲田大学の一文で日本文学を専攻。大学院は慶應で比較文学。だんだん年をとるにつれて、自分のオヤジのことが気になってきた。父も日本に6年間滞在していたが、満州事変で1931年中国に帰った。結婚は遅かったので、息子が21歳。娘は17歳。子育てに関しては、自負がある。息子は高校の時に外に出したので今はあまり関わっていないが、いろんな研究よりも、子どもが第一。

パーゴダ・アラッチゲ・ドン・ソーマパーラ氏 (スリランカ 昭和36年来日 元スリランカ国立芸術大学教授 息子41歳 娘39歳)



昭和36年に来日。東京芸術大学約5年間、絵と彫刻を学んだ。日本の女性と結婚して40年以上。息子は41歳。娘は39歳。私が日本に来た時は、東京オリンピックのちょっと前で、今のようにITも携帯電話もなかったが、みんなゆとりがある生活をしているようにみえた。科学の進歩や社会の変化で子どもたちの考え方や精神面も変化しているし、今の子どもの生活は大変忙しい。どの国も同じで、私の国の中でも変化している。一年に2~3回スリランカに行くが、やはり子どものゆとりが少ない。お母さんたちも働いていて生活に追われていると感じる。

父親から受け継ぎ、子どもに伝えようとしていること

エドバーグ 父親からは、自分の言ったことを守る。人を傷つけるような言葉や汚い言葉は使ってはいけない。うそをついては絶対いけないとと言われた。自分の子どもにも厳しく言っている。食事は皆一緒に、皆の食事が終わるまでテーブルに座っている。10歳くらいまでは勝手に行動することは許されない。厳しいだけではなく、よく子どもと話す。仕事でも、いろんなところに連れて行ってもらった。自分も出張に子どもを連れて行ったことがある。そのことで親が何をしているかが分かる。私の父親もよくしたように、私も時間を作って、子ども一人ひとりと一緒に博物館に行ったりする。普段は父親と話すのがいやでも、二人だけで行動すると、コミュニケーションをとらざるを得ないので、絆ができる。

吳 自分なりに3点まとめた。第1点は、子育ては説教ではなく、具体的に子どもの面倒を見ること。お父さんは家庭の中ではナンバー2に甘んじる。もちろん、ナンバー1は偉大なる母。2点目は教育費を惜しまないこと。ウチは共働き。僕は大学関係。妻は商社務めなので大変。送り迎えも夕食も全部私がした。食事は美味しいものを食べる。作れなければ外食もOK。ちょっと面白いこと。娘が小さい時、親の誕生日にカードを書いてくれた。「お母ちゃん、一生懸命働いてくれてありがとう」「お父ちゃん、食事をつくってくれてありがとう」。3点目は、今、子どもは、勉強が嫌いだというのかっこいいように言うが、これは一番格好悪い。できるかどうかは別で、勉強が一番好きだという子どもにしたい。

ソーマパーラ 父は大変厳しく、雷おやじ。いつも勉強しろというばかりだった。スリランカはイギリスの植民地で、国語は英語。お金がある人はイギリスに留学し、帰ってきたら良い仕事が待っていた。それを見ている父親は、勉強させて社会に貢献できる人についていたいと思っていたので厳しかった。悪いことをして怒られそうになると、母親が助けてくれた。学校も厳しくて、ちょっとでもサボったら、真っ赤になるほど叩かれた。その影響で私も自分の子どもに厳しくしたが、日本に来てからいろいろ周りを見て子どもの気持ちを邪魔するようなことはしなかった。

日本の父親とは、少し違う？

竹花 3人とも父親の存在を強く意識した子ども時代を送っていると思った。私の場合は、父親が何かを伝えようとしていたということはないように思う。僕自身は、僕の信念、例えば弱い者イジメを許さないということを伝えることはしてきたが、それは代々父親から受けついだものというよりは、むしろ、僕自身が学んだことや大事だと思うことを、一人の大人として伝えているということで、お三人とは大分違うなと感じている。日本の父親は私のような人が多いのではないか。

…ここで、フェルナンド氏登場…

ロハン・フェルナンド氏（スリランカ レストランシェフ 日本滞在14年目 2男1女）



日本に来て14年目。3人の子どもがいる。恵比寿のレストランでシェフの仕事をしている。4人兄弟の末っ子。お父さんは警察の偉い人ですごく怖かった。ルールばかりで、自分がすごく偉いと思っている。でもそばにいると心強いので、あこがれました。父親がすごく怒るので、母親は守ってくれた。父は、誰にも迷惑をかけずに、あるもので楽しむということを教えてくれた。父の趣味の3R（リサイクル、リデュース、リユース）に、今、私もまっている。裕福ではないが豊かな生活ができたのは父の趣味のおかげ。大人になるとには父とケンカもしたが、父親は55歳で仕事を辞め、私が29歳の時、59歳で亡くなった。私たちは今もお父さんが言ったことを守って生活している。

日本の父親が仕事一筋なのは、社会的にも、文化的にも仕方がない！

吳 小学校のPTAとか学童の父母会とか、積極的に参加して関わってきた。学童はお父さんも参加していろいろ活動をしていて良いが、PTAはお母さんだけの活動になっていて非常に問題。昼間やっているので、お父さんは参加できない。学童と同じに夜やればいい。中国では夜やっていて、お父さんが参加し、発言し、一緒に活動する。日本はそれがない

エドバーグ 日本では仕事のあり方として、どうしても早い時間に帰れないし、家庭を大事に出来ないようになっている。お父さんたちは長時間がんばればがんばるほど残業代が多くなる。遅く帰っても食事が待っていて、家族にねぎらわれる。社会的にも文化的にも、早く帰るのが難しい雰囲気があるというのが大きな問題だと思う。時間内に終わらない仕事では育休をとることなど絶対出来ない。スウェーデンでは、保育園の送り迎えのどちらかは必ずお父さんがやるので、子どものことも分かるようになる。日本では、お父さんたちは仕事で忙しいから、学校とは主婦が関わることになり一方的。家庭と仕事の両立がなく、ひとつのことしかできないと、人間としての成長にも企業の成長にもつながらないと思う。

…会場から、家庭内のトラブルについての発言あり…

家庭の機能の中での父親の役割とは何だろう

竹花 日常生活の中で、いろいろなトラブルがあると思うが、家族で互いに助け合うような連帯感がある家庭は、多少トラブルがあっても家族としての機能を果たしているのではないか。家庭全体の機能の中で、父親として子どもたちに、これだけはわかってほしいよというようなことがある。中身は一人一人違うだろうけれど、これだけは伝えたいと思ったら絶対に伝えきることが父親として大事なこと。人間として、こんな大人になってほしい。ここだけはまげるなよというものを持っていることが問われるし、それを絶対に子どもたちに伝えきることが大事だと思う。父親というものは、基本はそういうものだと思う。



会場の父親も発言

宗教がない日本で、子育ての芯になるものは？

ソーマパーラ おやじは宗教家だった。スリランカでは宗教がある。悪いことをしたら、仏壇の前や仏像の前で本当のことを言えと怒る。これは、信仰の問題なので、そういう時は絶対ウソは言わない。学者でも医者でもどんな偉い人でも、信仰の方が重い。

参加者 根っこに宗教のある国の人々は、子育てでも骨の部分がある。今の日本は無宗教。自由で信仰がない人がほとんど。そういうときに子育ては何を骨に作っていくのか。法律が骨になっているのでは話にならない。ルールではなく、もっと道徳的なマナーの部分。信仰がない僕たちはどうしたらそれを伝えられるか。

ソーマパーラ 私の国で宗教が4種類ある。仏教とヒンズー教とキリスト教とイスラム教。その人々は、考え方が全然違うが、宗教でけんかしたこと一度もない。日本は宗教のない国というが、何でこんなにマナーを守っているのか、あこがれる。宗教が4つある国でも、マナーが守れなかつたりする。芯は人間関係の一番大切なところ。日本ではちゃんとマナーを守ってきちんと電車に乗るのだから、芯がないことはないが、弱くなっているのではないか。戦前にはあったものが今はなくなり、問題がおきているのではないか。そのひとつの原因がゲームやマンガだと思う。遊びで人を殺すのは絶対やってはいけないことだと思う。

子どもに、真剣さを伝える

エドバーグ これだけ伝えたいということは「タイムアウト」つまり、一線を越えたなと思うときは全ての予定を取りやめても、これは本当に真剣だぞ！逃げ出せないぞということを伝えるということ。そうすると毎日の口げんかではなくて、真剣なんだということが伝わる。子どもが文句を言ったりする時には、私は統計を持ってきたり、視点を変えてみる。大人は良いけど子どもはダメいうこともある。私も子どもの頃、「わあ、こんなに注目されてしまうやばいな！」と思った経験があった。

真剣だということを伝えれば、子どもは分かると思う。



エドバーグ氏と呉氏

お父さんはひとりだけ、代わりはない

呉 僕は子育ては具体的なことだと思う。例えば、毎日夜、子どもと話して情報をたくさん持つ。仕事と同じ。情報の連続性もある。そうするには、非常に時間がかかる。仕事と子育ての両立は難しい。僕は仕事を犠牲にしたという気持ちが強い。僕は尊敬されるかということはあまり考えていない。とにかく、お父さんは一人しかない。中国に、「その位あらずんば、そのまつりごとはからず」ということわざがある。そのポストにつけば、ある程度できる。悪くても何とかこなせる。でも、お父さんは誰かが代わりにしてくれることはない。でも、それは、中学校くらいまで。高校生くらいになつたら友だちの影響が大きい。お父さんの立場で言うとかえって良くない。小さい時はそれが必要。

竹花 今日はそれぞれのご家庭のお話を伺つたが、みなさんのお国はどうか？ 中国のお父さんは、呉さんのように子ども第一、仕事は犠牲にしても良いと覚悟を決めている人が大半だろうか？

呉 統計は分からぬが、子どもはかなり大事にする。昔も今も。でも、今の若い世代は、自分の仕事が楽しくて、おばあちゃん、おじいちゃんに代わりをしてもらっているという傾向はある。

日本の父親の役割は、経済面の安定。中国は共働きが基本

竹花 日本の父親の家庭における一番大きな役割はしっかり稼いでお金を家に入れるということを考え方がある。もう一つ、過保護、特に父親の過保護はいけないという考え方もある。別に法律に書いてあるわけではないが、なぜかそう思い込んでいる人たちが多い。父親の背中という言葉があるように、自分の生き様を背中で見せていれば子どもは育つのだとか、父親がなくても子どもは育つとか、そんなことが言われる。他の国ではどうか？ そんな言い方は変だと思う方が多いだろうか？

呉 中国は共働きが前提。日本と事情が違う。日本も少しずつ変わっている。時代が変わってきてるので、昔のようなには対応できなくなっている。

スウェーデンでは、子どもと一緒に、家族単位で遊ぶ

エドバーグ スウェーデンでは、税制の関係もあって、二人の収入がないと暮らしていくのが難しい。父親という言い方ではなく、両親とか親という言い方。日本とは全然違う。家事も、男か女かということに関係がなく、得意なもの好きなものを担当する。日本では「遊びイコールお酒」が多いので、子どもと一緒に楽しむのが、スウェーデンではそうではなく、常に子どもが一緒に。休みが取りやすいので、冬は1週間くらいスキーに行つたり、夏は家族と一緒に5~6週間くらい海で過ごしたり、週末もスポーツなどいろいろなことをする。一番多いのは3家族か4家族が一緒にどこかに行つたり、誰かの家に行くこと。そこで飲むこともあるけれども、子どもたちがいつも一緒にいる。子どもと一緒にいる時間は本当にわずかなので、それを大事にしないといけないという考えが一般的にあると思う。

竹花 そういうことを学校で教えてくれるのか？ おとうさんかくあるべしというように学校で教えてくれるのか？

エドバーグ それは学校では教えない。一番の原因是、女性が強くなっていること。性別は関係なしに、自分の目的をはっきりもつようになった。社会全体としては平等主義、個人主義。自分が目指したいことは自分でガッバリなりなさいというのが一番社会的に認められている考え方。父親とか母親とかいうことはそれほど関係ないというのが基本になっている。



真剣な面持ちでパネリストたちの話を聞く参加者

スリランカでは家族が一番

フェルナンド スリランカは日本とは違って家族が一番。

今、49歳だけれど、今でも国を出るときには、お父さんお母

さんのところに行って、特別な挨拶をする。それを私の子どもたちにも教えているし、子どもたちも必ずしている。仕事は家族を元気にするためにすることで、日本のように仕事のために家族が犠牲になるようなことはしない。ウチの中ではお父さんが一番偉い。

日本の子どもは、なぜ、親に相談しないのか？

ソーマパーク 日本の子どもは、自分が問題を起こしたときに、なぜ、親にも学校の先生にも相談しないのか。私たちは、そういう時は、お父さんやお母さんに話す。でも、日本ではなかなかないように思える。自分でやったことは自分の責任だと子どもは思っているのか。大事な時でも相談はしないで、考え、考え、考えすぎてあとが続かなくなり、精神的に追いつめられる。爆発するまで、抱え込むから、自殺というようなことになる。親は、子どもが相談できるようなチャンスを作らなければならないと思う。家庭で子どもと一緒に食事したり、話したりするチャンスを与えてあげれば、子どもも話せるようになるのではないか。

日本では、家族の中にも気遣いがある

竹花 お互いを守るために家族を構成しているのに、日本ではそういう気持ちが薄いと感じないか？家族は皆味方、お父さんお母さん味方であるはずなのに、話すと迷惑がかかるとか心配をかけるという。子どもにそう思われるのではなく、どこかおかしい。そういう子どもの悩みを受け止めるために、話をするために親はいるのではないか。

エドバーグ 私が一番驚いたのは、私が学生の時、日本人の家庭で、その長男が王様扱いされていたこと。一人でお菓子を全部食べてしまっても、誰も何も言わない。子どもを怒らせたくないというそういう気遣いが家族の中にもあるのを感じた。

父親としての存在感を、どんな時に感じるか？

参加者 未成年の子どもがお酒を飲んだり、たばこを吸ったりエロ本を見ている場面に遭遇した女房から相談を受け、「あなたの子どもでしょ」と言われて、「ああ俺もおやじだった」と思ったという話が日本ではある。あらためておやじの存在を意識したのはどういう時か

エドバーグ 一番思うのは、子どもを見ていて、自分が逆の立場になったなあということ。私に対する子どものリアクションを見て、自分もこんな気持ちだったなあとか、そのときはおやじはこんなことを考えていたんだなとか、あんなことを悩んでいたんだなとか考える。自分が子どもの頃、親に対して「そんなに怒らなくてもいいのに」と思っていたのに、今はそれと同じように自分も子どもを怒っているんだなと気づくこともある。

吳 父親としての存在感はあまりないと思う。少しはおやじの存在を主張したくて、日曜日にいつもは子どもが座る上座に座ってみたりするし、もうちょっと偉くしたいとも思うけど、チャンスがない。私の父の方がもう少し存在感があったかもしれないが、父に怒られたという印象はあまりない。自分の周りにもそんなにいない。

竹花 私の友人の中国の父親をみても、あまりえべつたりすることはないように感じる。

エドバーグ 父親の存在がお金を稼ぐことにだけになってしまって、経済力によって尊敬しろと言うだけでは、「私の方が別のところでバイトすればもっと稼げる」という状況になったら、勝負できない。父親として別の次元で勝負しないと尊敬されなくなってしまう。それこそ、父親は一人しかいないと言うところに持っていくないとダメだと思う。

奥様との関係は良好？！

竹花 父親を子どもがどう思うかということについて、母親、奥様の影響は大きいと思うが、皆さんのお母様はちゃんと父親の存在を高めるように動いてくれているか？

エドバーグ 子どもの前で、両親の同盟が崩れてしまうと絶対だめ。そのあたりを私はとても気にしている。たまには「お母さんに言わないでね」「お父さんに言わないでね。二人だけの秘密」というもののいいと思うけど、今、指摘のところは、とても重要だと思う。

吳 自分は良いお父さんだとは思っているが、良い夫かどうかは疑問。たまには子どもの前でけんかもする。いくら世話しても、母性、母の愛は子どもにとって一番。僕も、自分の母親が今でも自分を愛してくれていると感じるから、ナンバー2に甘んじている。

竹花 ナンバー2でいいという中国のお父さんは多いのか？

吳 多いんじゃないかと思うが、いろんな形があるから… 日本でもそうではないか。

竹花 僕も完全に掌に乗せられているようなもの。うまいこと踊らされている。がんばんなさいとか言われて。

吳 日本人の特徴かもしれない。

竹花 父親は悲しくないか？ 父親はもっと威張ってもいいのではないか。

ソーマパーク 威張ってもいいけど、今の時代は威張ったら、相手が怒ってくるから怖い。



握手するパネリストたち
(フェルナンド氏は仕事のため、途中退席)

親子の仲良しと、友だちの仲良しとは違う

吳 親子が友だちの関係ということには、僕は絶対反対。それは違う。親は親。基本的には、子どもは是非を分別する力がないから、親がこれが正しい、これが間違っていると教えなければならない。それは友だち関係ではない。そこだけは譲ることができない。親子の仲は、友だちの仲良しと違う。

ソーマパーク あまり厳しくない楽しい家庭を作れると良い。おやじだからと言って威張らないで、子どもを説得する力がないとだめ。

大人として、子どもに、これだけは伝えたいと思うこと

エドバーグ 受け身ではなく、周りにあわせるのではなく、積極的に物事を追及していく力をつけてほしい。今は、非常に難しい時代だと思う。積極的に、主体的に、を目指すのをずっと持つていってほしい。親としてそれを伝えることができたらいいと思う。

吳 日本では、子育てに対して、非常に意識が高いお父さんがたくさんいて驚いた。でも、数が少ない。一部の人は、中国よりも子育てに対して関心を持っているが、平均値は中国よりも低いのではないか。

ソーマパーク 日本では、お父さんお母さんの子どもに対する意識がレベルが高い。今日のように民間レベルで集まって日本の将来や子どもの将来のために話し合うことはりっぱなことだと思う。私の国では民間レベルでこんなに集まるることは非常に少ない。

…最後に竹花理事長が「4人のお話を聞いて新たな視点があった。深く胸に落ちるものがあった。やはり、直接聞くことに意味がある。お父さんは一人だけと言葉に書いても、あたりまえじゃないかという話だけれど、彼がここで言うからそうだよなあと腑に落ちるものがある。いろいろな背景を持ちながら言っておられることが直に話すことで伝わってくる。今日は大変良かったと思う」と発言。コーディネーターの脇山会長も「新鮮なキーワードがあった。大変参考になった。」とまとめて、意見交換会を締めくくりました。

～ 広がれ！おやじネットワーク～ 「おやじ日本山形」設立！



おやじ日本山形 富田浩志

2008年10月11、12日の2日間、「日本を美しくする会・山形掃除に学ぶ会」の第58回年次大会が開催されました。その折、「おやじ日本」の竹花会長(当時)に「青少年問題と大人の責任」というテーマで記念講演をして頂きました。とても素晴らしい内容で、参加者は感動し、驚き、そして大いに考えさせられました。「人の心の荒みをなくす」という掃除の心の原点が、「おやじ日本」の主旨と相通じるものがあると思えたのです。

人の出会いは一瞬も早過ぎず、一瞬も遅過ぎないと言われていますが、竹花会長との出会いは、参加者の心を動かし、「おやじ日本山形」の立ち上げに大きな影響を与えました。価値観を共有する人達が、一人、また一人と増え、立ち上げに向けて動いたのです。

今の世の中は乱れ、倫理、道徳はおろか、人間の「命」までもが軽く扱われてしまう現実があります。子どもたちを取り巻く社会環境や、これから日本の将来に大きな不安を感じざるをえません。だからこそ、何とかしようという思いを持った人々と問題意識を共有し、行動していくと考えたのです。日本が、これからも世界の中で先進国の一員であるためにも、子どものことに無関心ではいられないと思うのです。

このようなことから、本年4月11日(土)、教育県をめざす「山形県」でも「おやじ日本山形」(和田代表)を立ち上げることになりました。当日は「特定非営利活動法人おやじ日本」竹花理事長にご講演を頂く予定で準備を進めています。

山形のおやじ達が結束し、社会の為に貢献したいと考えております。

◆◆ 活動報告 ◆◆

1月度運営会議 1月17日(土)午後6時～

第2回「世界のおやじ、日本のおやじ」意見交換会 記念大会 記念誌 協賛広告 iS運動アクションプラン
20年度決算報告 法人化に向けて パンフレット改訂版作成 他

2月度運営会議 2月7日(土)午後5時～

第2回「世界のおやじ、日本のおやじ」意見交換会 記念大会 記念誌協賛広告 iS運動アクションプラン
NPO法人活動開始関連事項 他

第1回定期理事会 3月14日(土) 午後5時～

理事会運営要綱 平成20年度、21年度事業計画・事業予算 入会金・会費 理事役務分担 委員会等に関する要綱
役員等出張旅費 事務局職員・パートタイマー就業規則 賛助会員に関する件 他

3月度運営委員会 3月14日(土) 午後6時～

「続・世界のおやじ、日本のおやじ」意見交換会 記念大会 記念誌 協賛広告 全国おやじサミットイン大分大会
渋谷区との共催事業 他

特定非営利活動法人おやじ日本設立記念大会実行委員会 3月28日(土)午後2時～

プログラム スケジュール 動員 配布資料 役割分担 協賛広告 交流会

※渋谷区内での活動 3月7日 午後2時～ 竹花知事長が青少年地区委員会50周年で年記念講演 渋谷区役所5階大会議室)
3月14日 渋谷区防犯セミナーで竹花理事長が講演

◆◆ 今後の予定 ◆◆

4月度運営委員会 4月22日(水) 午後6時～ 第2回定期理事会 5月30日(土)午後5時～ 終了後5月度運営委員会
平成21年度総会 6月27日(土)午後6時～

事務局からのお知らせ

☆入会のご案内とお願いのお手紙を送付させていただいているので、手続きをよろしくお願い申し上げます。又、記念誌に掲載する賛助広告も募集中です。

★お知り合いの方に、NPO法人設立記念大会への参加の呼びかけをお願いします。チラシは、このニュースレター2ページに掲載してあるものをコピーしてお使い下さい。又、ホームページからダウンロードすることもできます。

☆事務所は、原則として、月～金の午前10時～午後4時まで開いています。

【発行】 おやじ日本

住所 渋谷区神南1丁目19番8号 渋谷区立勤労福祉会館2階

電話&ファクス 03-3462-7113

ホームページ <http://oyaji-nippon.org/>

会員用ブログ <http://blog.goo.ne.jp/oyaji-deban>

事務局担当理事 小山 洋子 desk@oyaji-nippon.org

編集担当 寺田 真理子



ここに記載の内容は全て無断転載を禁じます